隣接地域における地域からの意見把握等について

1 目的

第4期知床半島エゾシカ管理計画において、「狩猟と許可捕獲頭数のバランス調整を行うために、関係機関や団体と協議する場を毎年設ける」とされています。

隣接地域については、多様な利害関係者の生活圏でもあることから、そのご意見にも配慮することが必要です。

ご意見への対応については、一般狩猟を調整することは難しいものの、行政が行う有害捕獲や個体数調整などの許可捕獲については一定の調整が可能であることから、遺産価値の保全を第一義としつつも、捕獲圧の強弱や捕獲場所・捕獲手法などの必要な調整を行うことにより、地域の理解を得ながら管理計画を進めることが、隣接地域における管理のあり方のひとつでもあるとの考えによるものです。

こうしたご意見の把握を捕獲状況や生息密度調査の報告と併せて実施するとともに、地域が受け止めている密度感を継続的に把握し、その変化等を捉えて、適正な密度の合意形成を目指すものです。

なお、意見把握については、秋を目途に意見を聴取し、結果をWGにおいて報告、調整に関する意見が出された場合には、その検討を踏まえた捕獲計画を翌年のWGにおいて報告・提案を行うこととしています。

2 2023(令和5)年度の結果(別紙)

- ① 調整に対する意見
 - ・ 斜里町、羅臼町、利用事業者とも、今後もこれまでと同じペースで捕獲事業等を実施して欲しいというご意見。

② 密度感に対する意見

- ・ 斜里町は、以前は多いとの印象であったが、現在は、それほど多くないとの印象。
- 一方で、斜里町側であっても、他の地域からの流入もあってか山の中は多いとの印象を持たれている方もいる。
- ・ 羅臼町や利用事業者は、一時は密度の減少を実感できたが、近年、再び増加している ような印象。

③ その他の意見等

- ・ 定期的に隣接地域の関係者から要望や意見を聞いてもらいたいとの要望。
- ・ 環境省、道、町、林野庁の連携が大切。併せて、利用事業体との連携も大切。
- ・ 繁殖期のオスは、逃げない等挙動に変化があるため、ドライバーも観光客も注意が必要。

斜里町 10月17日(火) 参加者14名

【隣接地域における個体数調整に対する要望の有無】

- ・ 観光客が写真撮影する場合などのこともあるので、<u>現状以上の</u>・ ペースで捕獲しなくても良いと考える。
- ・ 昔は、あまり見なかったが、平成になって、庭木のオンコ等に被害が及ぶほどとなった。地域の方々にこのような迷惑がかからないよう今のまま捕獲し続けて良いと考えている。

【地域の方々が感じている密度感の共有】

- ・ 個体数が多いとは感じていない。
- ・羅臼町住民の印象が斜里町住民と違うのは、斜里町側では、大きな被害が生じていないためではないか。10年以上前は、オシンコシン付近で何百頭も草を食む姿が確認できたが、ウトロ西近郊では、1年に1~2回見る程度である。
- ・ 以前は、エゾシカの個体数は、多くなく、それが、爆発的に増えて、 長い間、頭数が多い状態だった。このため、土砂流出やユズリハや ツタウルシが優先するなど下層植生の多様性が保てなくなった。<u>昨</u> 今、捕獲が進み、少しずつ下層植生が回復してきた。

【その他】

- ・ 今回の意見交換会でのことを今後の事業に反映等していくとの話 なので、<u>定期的に隣接地域の関係者から要望や意見を聞いてもらいたい</u>。
- ・ シカの問題については、様々な場面で要望してきたが、対応してく れる行政機関が不明瞭で困っていた。予算や管轄の問題もあろう

羅臼町 10月20日(金) 参加者5名

※1名の方から事前にご意見をいただきました。
【隣接地域における個体数調整に対する要望の有無】

- 最近は、冬が楽に越せているような印象があり、そうなると自然死する個体が少なくなり、<u>捕獲圧を下げるとどんどん増えていくことが懸念</u>される。聞いた話であるが、別海町では諸事情により夏の捕獲を中止したところ、実感として増加したとのことであった。地域全体で調整した意見ではないが、夏の捕獲が効果あるのではないかとの考えに及んだ。通常の仕事もしているので、いろいろな調整は難しいと思うが、ワナでやるとか携わる者を限定的にする等の工夫で対応できないか。
- ・ シカによる<u>様々な影響がある状態を把握</u>して、それらとのバランス をとって方針を決めてもらえば、特段の要望はない。

【地域の方々が感じている密度感の共有】

- ・10年くらい前、役場が麻酔銃、吹き矢等で対策して、市街地で見る ことがなくなったと思っていたら、<u>ここ最近増加している印象</u>。羅 臼町側の隣接地域における航空カウントの発見密度に違和感があ る。
- ・羅臼町側の隣接地域における航空カウントの発見密度は、約2頭とのことであるが、違和感がある。地域住民としては、<u>減っている感</u>覚はなく、むしろ増えているような気もする。
- 遺産登録2005年以降、エゾシカを捕獲しはじめ、一時は減少したが、再び増えだした地域もある。遺産地域は環境省が、隣接地域は市町村や林野庁が実施しているが、<u>低密度状態の維持はなかなかうまく進まない面</u>もある。これからもエゾシカ捕獲に携わる機会があれば、予算やマンパワーによる制約もあるが、できるだけのことはしたいと考えている。

斜里町 10月17日(火) 参加者14名

羅臼町 10月20日(金) 参加者5名

が、環境省、道、町、林野庁の連携が大切。一方、エゾシカは、地域の「【その他】 用事業体との連携も大切。

利用事業者訪問等 11月6日(月)、7日(火) 2社

- 農業(狩猟)にも従事しているが、斜里町側でも個体数が減少して いる印象はないので、これまで同様のペースで捕獲事業等を続け てほしい。
- 市街地は減っているとのことであるが、他の地域からの流入も あってか、隣接地域に限らず山では多いので、捕獲圧が弱い印象。
- ・ 今年度は、昨年度と違い、ホテル等からの引き合いが通常に戻っ た感触。
- ・ 今年度から買い取りを再開しているが、人手不足もあり、万度に受 け入れが進んでいない。
- ・ 受け入れは、一般狩猟の個別でも有害鳥獣駆除でも受け入れてお り、捕獲方法も銃器、各種ワナともに受け入れているが、この時期 は、繁殖期で捕獲しやすいオスが多く、用途も限定的。
- ・ 狩猟の際に使用する車両では、シカはすぐに逃げるが、トラクター であれば、何の危害も加えないと学習して逃げない。

- | 資源でもあるので、難しい面もあろうが、利用まで視野に入れ、利|・ 標津町から羅臼町に入った国道上でオスジカが原因で軽自動車が| 大きく破損する交通事故があった。繁殖期でもあるため、オスジカ は俊敏に動かない。
 - 採草作業の横でシカが牧草を食べており、追い払っても、また戻っ てくる。特に、収穫量は少なくなるが、有機農法を実践しており、栄 養価が高く、家畜が好むクローバー類が多くなるよう努力している が、シカも好んで食べるため、被害が大きい。
 - 交通事故について、10~11月に増加する理由としては、日没が急 激に進む時期で、ドライバーの夕刻の感覚のずれや繁殖期の黒く なったエゾシカを視認しづらくなるためと推察される。さらには、ド ライバーは、これまで同様、エゾシカが逃げてくれるだろうと思いこ んでいるが、特に繁殖期のオスジカからは、俊敏さがなくなり、簡 単には逃げなくなるために事故につながっているものと推察され る。
 - 繁殖期のエゾシカは、危険なものとなるため、安易に近づいたりし ないよう観光客に注意喚起が必要である。
 - 町内では、以前、エゾシカの食害にあったエンレイソウが回復の兆し を見せるなど捕獲事業等の効果があらわれているものと思量して いる。